

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101819		
法人名	医療法人 慈成会		
事業所名	グループホームほほえみ		
所在地	徳島市津田西町一丁目9-5		
自己評価作成日	令和4年2月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和4年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、自然豊かな中でゆっくりと入居者様一人ひとりの出来る事を日々の生活の中で又、季節ごとの行事の中で楽しみながら過ごせるような取り組み行っております。十分な感染対策を行いコロナ禍であっても利用者様・家族様が安心して生活頂けるように対応しています。家族様には、面会制限をさせて頂いている為入居者様の様子を定期的にお知らせしております。入居者様本人様とご家族と電話でお話をして頂いたりしております。職員一同が家族となり穏やかに過ごせる環境作りに努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周辺に神社仏閣や桜の木があり、季節を感じる事ができる自然豊かな高台に位置している。“ゆっくり”、“一緒に”、“楽しみながら”という理念を掲げ、利用者一人ひとりを尊重し、住み慣れた地域で生きがいをもちつつ、生活できるよう支援に努めている。新型コロナウイルス感染症の流行下において、地域や家族等、友人とのかかわりが困難であっても、日ごろの体操やレクリエーションを工夫するなどして、事業所内で楽しみをもって過ごすことができるよう取り組んでいる。家族等とは、利用者の写真を添付した“ほほえみ便り”の送付や電話連絡等でコミュニケーションを図っている。同一法人の運営する協力医療機関から定期的な往診や看護師の来訪があり、緊急時等も24時間対応可能な体制を整備し、利用者や家族等の安心に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり 一緒に 楽しみながら」の理念を揚げ常に立ち返れるように提示しその理念の元に住み慣れた地域でその人らしい生活が出来ると環境づくりに努めています。	事業所は、開設当初からの理念を大切にしている。定期的に、理念について、職員間で協議・見直しを行い、共有化を図っている。利用者が職員や地域住民等と楽しみつつ、その人らしい暮らしができるよう日ごろの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で以前のように地域の方との交流が難しくなっています。運営推進会議・議事録やほほえみ便り等を民生委員の方に送りしております。	事業所は、感染症(コロナ等)の流行下において、散歩の際に近隣住民と挨拶を交わしている。管理者は、感染症の流行下において、これまでの交流が途絶えているボランティアや子どもたちと連絡を取りあうなど、つきあいの継続を目指している。	今後は、感染症の流行下においても、ボランティアや子どもとの交流の継続に向けて働きかけられたい。対面以外での交流の方法等について職員間で意見を出しあうなど、さらなる工夫に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議・議事録を送らせて頂き、月の行事等お知らせさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催が難しい中、議事録等送付する形となっていますが事業所内での活動状況、目標等報告させて頂き議事録・月間の取り組みを次の業務に活かさせて頂いています。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行下においては、各委員に議事録や事業所だよりを送付するなどして、事業所の状況を報告しているが、各委員から意見を得て、双方向的な会議となるまでには至っていない。	今後は、双方向的な会議となるよう、返信用封筒や電話の活用等、会議の開催方法について職員間で検討されたい。書面会議においても、各委員から意見を得ることで、サービスの質の向上に繋げることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍のため、毎月利用状況表等の報告を担当者様に送らせて頂いています。	職員は、市の担当窓口を訪問したり、報告書を送付したりして、事業所の現状を伝えている。感染症の状況に応じて電話等を利用するなどして、相談しやすい関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のない支援を行うように定期的に研修を行い職員に周知し拘束なく安全に生活が送れるようにしております。	事業所では、定期的に身体拘束についての研修を開催し、職員の身体拘束に関する理解を深めている。立地の関係から、やむを得ず玄関を施錠しているが、利用者の外出希望には職員が付き添うなど、抑圧感を感じることはないよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の研修や事業者内で定期的に研修を行い職員に周知しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されている入居者様はいませんが、定期的に研修で行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族様と入居者様がわかりやすく説明を行い、不安や疑問点ありましたら説明をさせて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍であり家族様と直接お話しする機会が少ない中、日頃から職員に対し何でも話せる雰囲気作りを心がけております。意見やご要望等は朝・夕の申し送りやミーティング時に話し合い運営に反映させております。	事業所では、日ごろの利用者とのかわりのなかで、意見や要望を把握している。家族等からは、面会時に意見を聞く機会を設けている。電話連絡や事業所だよりの送付等で、コミュニケーションを図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、ミーティングにて問題点を話し合いを行い職員の意見・疑問を運営に反映しております。	管理者は、毎日の申し送りや月1回のミーティングの際に、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。必要に応じて、個別に意見等を聞くこともある。意見等の内容に応じて、代表者に伝えるなどして、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き方改革によりフレックスタイム制の導入・労働時間の厳守、有給休暇5日以上の取得など働きやすい環境作りに努めています。又、webによる外部研修など積極的に参加してもらっております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の案内があれば観覧をしている。希望者には受講できるように勤務調整を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンライン研修にし情報収集などを行い、サービスの質の向上に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コロナ禍で家族様との面会が難しくなっているので、できる限り入居者様の要望を聞いて不安感などが無いように対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ禍で家族様と直接お会いして話せないで、定期的にご連絡させて頂いたり紹介先やケアマネの情報を活用して信頼関係を築けるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する際は、入居者様・家族様が何を必要とされているか理解し、より良い支援が出来るように努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に入居者様に尊厳の気持ちで接し、共に支えていく関係に努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の日常の様子を家族様に提供し、共有することで入居者様をお互いに支えていくように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様や知人の方との電話で話をしたり出来るよう対応しています。	事業所では、感染症の流行下において、安全面に配慮しつつ、面会や電話のやりとりを支援している。感染状況を勘案し、代表者とも相談しつつ、訪問理容を受け入れるなど、馴染みの人や場との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で話が出る環境づくりや職員の間に入りコミュニケーションが取れるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で退居になられても、本人様や家族様から不安なことや相談ごとがあれば話ができる体制にさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、入居者様との関りの中で表情や態度などから希望や意向の把握に努めております。又、職員間で情報を共有し、入居者様の様子の変化等のその都度検討するように心がけております。	職員は、日ごろの利用者とのかかわりのなかで、思いや意向の把握に努めている。意思の表出が困難な利用者については、レクリエーション等で表情や仕草に着目しつつ、職員間で共有したり、家族等に相談したりして、意向等を本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に入居者様や家族様の情報から生活歴等を把握すると共にケアマネ等からの情報も合わせて把握しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の心身の状況や日常生活の様子を記録し、職員全員が一人ひとりの生活パターンを把握しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様にお電話で状況報告することによりご意見を聞き、入居者様のご要望や出来る事を組み入れた介護計画を作成し入居者様がより良い暮らしが出来るようにしております。	事業所では、計画作成担当者が主となり、利用者や家族等の意見を反映した介護計画を作成している。定期的な計画の見直しに加え、利用者の心身状況の変化に応じた見直しも行き、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。介護計画は家族に送付、説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態変化を記録し、朝・夕の申し送りやミーティング時に情報を共有し、介護計画の見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様と家族様のニーズに合わせて出来る限り必要な支援は柔軟に対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流が難しい中お世話になっている民生委員や地域の人たちの支援により安心して生活できるように努めています。地域での情報があれば連絡して頂けるように対応しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様や家族様が希望するかかりつけ医の受診を支援しております。	事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。週1回、協力医の訪問診療や訪問看護、訪問歯科を受け入れている。専門医の受診は、職員が支援し、家族等と状況を共有している。緊急時等、24時間対応可能な体制を整備し、利用者や家族等の安心に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1度協力医療関係の看護師が来て、入居者様の状態把握をしてもらいこちらからも状態報告をさせて頂いています。体調不良者には主治医と連絡を取り対応し、緊急時の協力体制も出来ております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と相談をしながら対応させて頂いております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応や看取りに関する指針を作成し入居者様・家族様に説明同意を頂き協力医療機関と連携し取り組んでおります。	入居時の段階で、利用者や家族等に重度化や終末期における事業所の方針について説明し、同意を得ている。食事量の減少等、利用者の心身状況に変化があれば、家族等や協力医と相談し、方針を共有しつつ、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医と連携・緊急時の連絡や応急手当の対応等、定期的に研修・訓練をさせて頂いております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、入居者様に参加頂き消防・防災訓練を行っています。安全な避難誘導が出来るように備えております。	年2回、利用者とともに、事業所独自の避難訓練を実施している。食料品や生活用品等の備蓄品を整備している。感染症の状況を勘案しつつ、地域との協力体制の整備についても、計画中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの尊厳を維持し言葉遣いや態度に注意し、職員同士気づいた時は、声かけ合うようにしております。	事業所は、接遇マニュアルを整備し、年1回、接遇やプライバシー保護に関する研修を実施している。職員は、マニュアル等に基づき、声量や居室のドアの開け閉めなど、プライバシーに配慮しつつ、支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様には、できる限り自分で選んでもらえるような働きかけをしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の入居者様の状態を見ながら、ご希望が何なのかどうしたいのかを職員が声かけをしながら支援をしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ入居者様に好きな衣服を選んでいただけるように対応しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しく食事をして頂けるように、入居者様一人ひとりの形態に加工し盛り付けを提供しています。毎食入居者様がホワイトボードにメニューを書き写しリビングに提示しております。又、食後は軽くて壊れない物を職員と一緒に片づけて頂くようにしております。	事業所は、炊飯や汁物の調理を行い、利用者一人ひとりの食事形態に応じた食事を提供している。年1回、嗜好調査を実施し、利用者の好み等を献立に反映している。利用者には食器並べや盛り付け等、できることで準備に参加してもらうなど、生きがいがづくりにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来るだけ食事をしっかり食べて頂けるようその日の入居者様の状態支援を行っています。1日の食事量・バランス、水分量の数値も記録して把握しております。それでも、食事量が少ないようであれば主治医や栄養士に相談させて頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。入居者様の状態に応じ介助が必要な方は支援しております。協力医による訪問歯科もを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなく声をかけトイレ誘導行い可能な限りトイレで排泄出来るように支援しています。	職員は、排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。さりげない声かけにより、利用者のプライバシーに配慮しつつ、可能な限りトイレでの排泄を支援している。夜間は、希望や状況に応じて、ポータブルトイレやオムツを使用しつつ、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表をもとに排泄状態を把握、水分・食事の摂取量に注意し運動や腹部のマッサージを行っている。排便が出ていない日が続くようであれば、主治医に相談させて頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中に出来る限り入居者様が入浴したい日に入浴出来るなど柔軟に対応させて頂いています。	事業所では、少なくとも週2回の入浴ができるよう支援している。入浴日は、利用者の希望に対応できるようにしている。浴槽につかることが困難な利用者には、シャワー浴と足浴を併用し、清潔保持に努めている。季節に応じて、ゆず湯を行ったり、入浴剤を用いたりして、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様のその日の状態を見ながら室温・室内の明るさ寝具等整え、生活リズムが崩れないように配慮して支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルを作り薬の内容が確認出来るようにし、変更時には職員間で周知を行っております。飲み忘れや誤薬ないように配薬表を使用、服用時は名前・日付を声に出し、誤飲、状態の変化等がないか見守りをしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内でのレクリエーションをしたり、パズルをしたり日々の生活の中で楽しみや個々の状況に合わせた役割を担って頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、病院受診以外は外出が出来ていません。	事業所では、近隣の桜を見に行くなど、外気に触れる機会を設けている。感染症の流行下において、外出を控えているが、事業所内で体操やレクリエーションを行い、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出が困難な時であり、買い物を楽しむことが出来ませんが、入居者様によりご希望な物・必要な物を購入させて頂いております。又、ご自身でお金を持つことで安心される方は能力に応じ支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的なご連絡以外にいつでも電話でお話を出来るよう対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は安全と清潔を守り、安心していつでも好きな時に利用できるように心がけております。入居者様と共に作成した季節ごとの作品等を飾り居心地よい空間を提供するように努めております。	共用空間は、吹き抜けの窓から光を取り込み、明るい。壁面には、利用者と職員と一緒に作成した季節の作品を掲示している。量のスペースやソファを設置するなどして、利用者がくつろぐことができる環境を整えている。温度・湿度管理や換気、消毒等を行い、感染対策に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ではTVを観たり、ゲームをしたり一人ひとりがリラックスして好きな事が出来る雰囲気づくりを心掛け、職員・他の入居者様とゆったり話したりできる環境づくりをさせて頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限りお家で使われていた使い慣れた物・馴染みのある居宅で使って頂くように配慮しております。	居室には、利用者の馴染みの家具や調度品等を持ち込んでもらっている。仏壇等を持ち込むなど、家庭での暮らしが継続できるよう支援している。利用者と相談し、家具配置を行っている。清掃にも気を配り、居心地の良い居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるように入居者様一人ひとりの状態に合わせた家具の配置・ベッドの高さ、物のやすさ等工夫しております。又、トイレなどもさりげなく場所がわかるように対応しております。		